

【ボクシング】全日本王者に聞く 堤駿斗（東洋大） 世界ユース王者の目標は五輪王者

2018.5.23 10:50 | スポーツ | 格闘・相撲

堤駿斗は平成28年にロシアのサンクトペテルブルクで開催された、第5回アマチュアボクシング世界ユース選手権（18歳以下の世界大会）で日本人として初めて優勝した。つまり、「世界チャンピオン」である。昨年には井上尚弥（相模原青陵高校＝当時）が高校生ながら全日本選手権を制して以来、同大会で6年ぶりに同じく高校生で優勝した。

5月12日に開幕した関東大学ボクシングリーグ戦のデビュー戦は、テレビ取材も入るなか、ライバルの松本圭佑（東農大1年）に勝利した。「まさかデビュー戦で戦うとは思っていなかった。彼のことは常に意識しており、切磋琢磨する仲だ」と述べた。



デビュー戦のリングで三浦監督（右）からの指示を聞く

小学校1年生から極真空手を習っていたが、兄の影響で小学校4年生の終わりにボクシングを始めた。後楽園ホールのリングには、中学生の時に試合で2回上がっているものの、「大学リーグ戦はお客も多く雰囲気違った」と話す。多くの大学の誘いの中から東洋大を選んだ理由は、「昨年のリーグ戦を見に来た時に部の雰囲気が良かったし、ボクシング部の設備も充実している」から。「部が団結していて、優勝したいという気持ちも強い」と、今年は堤の加入で1部リーグ初優勝なるか。寮生活は「上下関係なく仲が良い」そうだ。大学生からヘッドギアがなくなるが、「昨年の全日本選手権で経験したので、慣れた」と万全の状態だ。

ボクシングの魅力は「試合中の対戦相手との駆け引き」で、「相手の表情や精神状態を読み取り、うまく攻撃に繋げることが大事」と、まだ少年の面影を残すものの、取材中も冷静だった。目標は2020年東京オリンピックで金メダル。そのためには「全体的な底上げが必要」だと感じている。

リングシューズには「World Champion」と刺繍されていた。（岩崎仁）

【プロフィール】堤駿斗（つつみはやと） 東洋大学1年。1999年7月12日生まれ。千葉県千葉市出身。習志野高校卒。戦績70戦65勝（20KO・RSC）5敗。高校総体、全日本選手権、世界ユース選手権など国内外タイトル11冠。

■ 関東大学ボクシングリーグ戦 official website

<http://www.kantouniv-boxing.jp/>